

JODC ニュース

Japan Oceanographic
Data Center

No. 52

March 1996



- 会議開催・出席報告 p.1
- 海の相談室だより p.4
- 1995年受領データ一覧 p.5
- JODCのデータ管理状況 p.7
- Topics & Information p.9
- IOC刊行物・文書保管センターから p.13
- 世界の海流図について p.14

日本海洋データセンター
(海上保安庁水路部)

会議開催・出席報告

「青島シンポジウム」出席報告

「縁辺海における物質循環機構の解明に関する国際共同研究」の一環として平成7年11月15日～同17日の間、縁辺海の物質循環をテーマにした国際シンポジウム「International Symposium on Material Flux in Coastal Seas (ISMFCS)」が青島の中国科学院海洋研究所で開催されました。

JODCは、当該共同研究における「データ管理に関する研究」を担当し、関係国のなかでも中国との円滑なデータ流通を重要な課題と位置づけ研究に取り組んでいる観点から、シンポジウムに参加する機会に併せ、中国側のデータ管理関係機関との打ち合わせを実施することといたしました。

1 「シンポジウム」の概要

及びデータ管理状況等

シンポジウムは、発表を予定していた日本側研究者の多くが出席できなかった事情もあり、若干小規模ではありましたが、発表総件数約40件について終始熱心に討議等が行われ、また会場に当てられたのは中国科学院海洋研

究所（青島）の講堂と思われる建築物で、常時35名程度の参加者には適当なスペースと思われました。

担当している「データ管理に関する研究」に資するための観点から、各研究者の発表等を通じデータの取得及び活用状況並びに中国におけるデータ管理状況の把握に努めたところ、概ね次のような状況を掴むことができました。

(1) 東シナ海における物質循環系機構の解明には、特に沿岸海域のみならず中心部海域における流れのデータが極めて重要であり、しかもそのデータは新旧のものを含め、広範囲にわたるものが必要不可欠であるということ。

しかし、これらのデータが日中間で効率的な流通が成されていないと判断されること。

(2) 当該共同研究における中国側でのデータ管理等の窓口は、我が国における日本海洋データセンターとは異なり、現状では一人の研究者がボランタリー的な立場でその任に当たっていること。

(3) 当該共同研究における中国側の研究者



中国一景

が関連的なデータを含め、我が国のデータ入手を強く希望していること。

(4) 現在、中国海洋データセンターは、当該共同研究に全く関与していないこと。

また、同センターが関与するためには、国内で十分な協議等の時間が必要であること。

この件に関して、同センター及び同センターの直上機関である国家海洋局によれば、次の事実関係から種々の国内問題も潜在しているとのことでした。

- ・調査研究の種別を問わず国内で取得される海洋データの管理・提供サービスについては、中国海洋データセンターにその責務がある。

- ・当該調査研究は、全く別の機関である科学院が企画したこと及び現在、取得データが同センターへ提供されてないことから判断して、当該研究期間中に同センターが中国の窓口機関として参画することは極めて困難である。

従って、通常の海洋データと同様に中国における最終的な管理等機関として責務を遂行することを検討したい。

(このことは、我が国と同様に、いわゆる縦割り行政の欠点が浮き出ているものと解釈されます。)

2 「データ管理に関する研究」今後の方針

前述のとおり、当該共同研究においては、国内はもとより日中間での円滑なデータ流通が極めて重要なこと、現状における中国側のデータ管理等状況が確認できたことを踏まえ、JODCでは、引き続き「国内取得データの収集、管理」、「国内データセットの作成」等の研究を重点的に進めるほか、中国側のデータ管理者との協議を進め、日中間での円滑なデータ流通が成されるよう図る予定としていますので関係各位の一層のご協力をお願いいたします。

海洋環境モニタリング & データ管理ワークショップを開催

平成7年12月5日～6日の2日にわたり、



海上保安庁水路部は運輸省環境・海洋課と共催し、「海洋環境モニタリング&データ管理ワークショップ」を開催しました。

このワークショップは、「国連環境計画(UNEP)」が閉鎖性海域の環境保全を目的として推進している世界13地域海計画の一つである「北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP)」の実施に資するため、その対象海域の日本海、黄海の沿岸国である中国、韓国及びロシアから専門家を招へいし、各国における海洋の汚染調査の現状とその技術的問題点及び海洋環境データの管理の現状について情報を交換し、この分野における関係各国の相互理解を深めるとともに、今後の関係国間での協力のあり方を探ることを目的として実施したものです。

ワークショップは、国内から立川涼高知大学長、永田豊三重大学生物資源学部教授、尹宗煥九州大学応用力学研究所流体力学部門助教教授及び環境庁、運輸省、気象庁等の専門家並びに水路部の海洋調査、海洋汚染調査、海洋データ管理(日本海洋データセンター)の専門家が、国外からは中国国家海洋局、韓国海洋調査開発研究所及びロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所等5機関から6名の専門家が出席しました。初日は、海上保安庁水路部長の開催挨拶に引き続き、立川高知大学長の基調講演、各国専門家による海洋汚染調査の現状とその技術的問題点、海洋環境データ・情報の管理状況について報告がなされました。

2日目は、永田教授を座長として専門家の報告に基づき、各国の今後の協力のあり方についての活発な討議が行われ、以下のような合意が得られました。

1. 日本海、黄海はPCB、DDT等の各種汚染物質による脅威にさらされており、

今後海洋汚染状況の長期傾向の調査について正確に把握することが極めて重要である。そのためには、各国の調査項目、調査海域、調査頻度を調整することが必要であること。

2. 調査の結果を最大限有効に活用するためには、参加国間のデータを相互に比較すること、データを効率的に管理することが必要である。また、海洋環境を理解するためには、既存のデータや既知の知見を評価し、必要に応じ国際協力研究プロジェクトを検討すべきである。これらを効率的に進めるためには各国の海洋データセンターを利用していくべきであること。
3. 上記1. 2.の問題点を解決し、合意点を遂行していくために本ワークショップを今後とも継続的に実施することが重要であること。

なお、この結果は、議長サマリー・レポートとしてUNEP事務局等に送付されます。

今回のワークショップは海洋汚染調査、海洋環境データ管理の各分野の専門家が一堂に会し情報交換を行ったことにより、専門家間の友好を深め、力強い人的つながりを構築することができました。このことは、議長サマリー・レポートと併せ、今後我が国がNOWPAPを遂行していくうえで非常に意義のあるものと考えられます。また、このワークショップは外務省、環境庁及び気象庁の後援を受け、(財)シップ・アンド・オーシャン財団の平成7年度海外交流基金により行われたものです。(企画課 前村)

NEAR-GOOS 拡大アドホック・ワーキング グループ会議出席報告

標記の会議が1月8日から10日まで、タイのバンコクで開かれた。出席者はIOCのWESTPAC地域事務局から Yihang Jiang 1名、中国の国家海洋局から国際合作司司長 Xu Yukun、第二研究所所長 Su Jilan (WESTPAC議長) 他2名、韓国から KODC所長 Sangbok

Hahn 他2名、ロシアからNODC所長 Nickolai Mikhailov 他2名、日本からは東京大学海洋研究所から平教授、気象庁から信太調査官、JODCから辰野所長が出席した。

この会議の目的は、北東アジア地域世界海洋観測システム (NEAR-GOOS) の実施計画案について検討し、96年2月に開かれるWESTPACサブコミッション総会に提出する案を決定することである。

NEAR-GOOS は93年のUNESCO第27回総会の第57決議によりIOCのパイロットプロジェクトとされているもので、94年8月に北京で、94年11月にパリで専門家会議が開かれプロポーザルが作成された。これに基づき、上記4カ



国から1名ずつ参加した草案グループが組織され、平教授がコーディネーターとして、実施計画を準備した。この実施計画を最終的なものとするため拡大会議が開かれたものである。

会議の議題はおおむね以下のとおりであった。

1. 実施計画の状況
2. データ報告とデータ管理
 1. 報告フォーマット
 2. E-mailデータベースのデザイン
 3. データセンターでのデータベース
 4. NEAR-GOOSの発展
 5. NEAR-GOOSの運営メカニズム
3. NEAR-GOOSの宣言とWESTPAC-GOOSへの発展
4. サマリーレポート採択

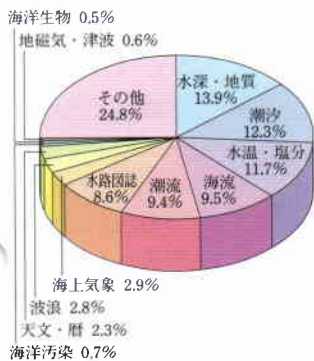
会議では、観測機関、観測項目、データフロー運営機関等について検討された。これらの検討結果は96年2月のWESTPAC会議に提出されることになった。

運営機関として、コーディネーション委員会を作り、各国2名の委員を出し、年に1回会合する、海域は日本海、黄海、東シナ海とする、等の案となった。

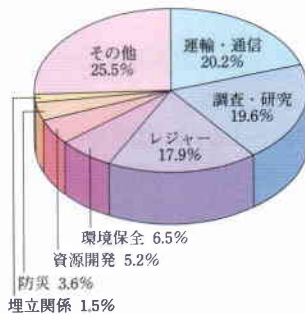
海の相談室だより

■平成7年本庁「海の相談室」利用状況

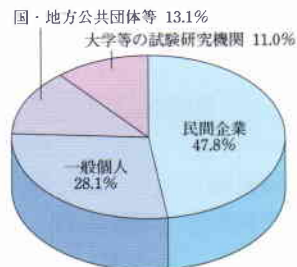
1. 項目別提供比率



2. 利用目的別提供比率



3. 機関別提供比率

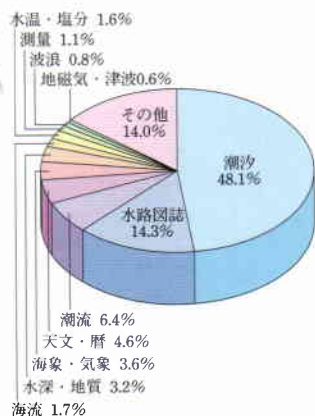


平成7年本庁「海の相談室」利用総数は7,698件で平成6年よりも1,733件減少しました。

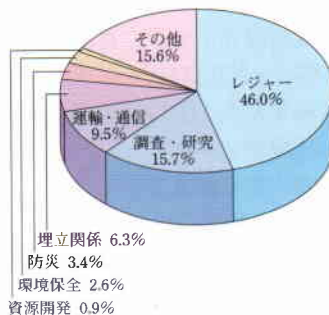
項目別内訳は、上図のとおり水深・地質（13.9%）、潮汐、水温・塩分の順でした。その他も（24.8%）多く内容は海洋法関係、船舶の航行量、沈船、海技免許の取得方法、海事用語に関すること等、海洋データ以外の様々な質問が増加しています。利用目的別では運輸・通信（20.2%）がもっとも多く（去年はレジャー）、機関別では、民間企業（47.8%、去年は37.9%）でした。

■平成7年管区「海の相談室」利用状況

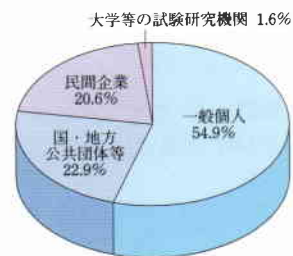
1. 項目別提供比率



2. 利用目的別提供比率



3. 機関別提供比率



また、平成7年管区「海の相談室」利用総数は7,218件で、昨年よりも1,720件と大幅に増加しました。項目別では潮汐（48.1%）がもっとも多く、次に水路図誌、潮流の順でした。利用目的別でもレジャー関係（46.0%）がもっとも多く、昨年より2.5%増加しました。また、機関別では一般個人（54.9%）、国・地方公共団体等の順でした。

1995年受領データ一覧

JODCが、1995年1月から12月までに受領したデータ（文献等は除く）は、以下のとおりです。貴重なデータを提供していただいた各機関には厚く御礼申し上げます。

これらのデータは、処理が終わり次第提供可能データに追加・管理される予定です。

JODC業務の大きな柱である「迅速なデータ流通」をよりいっそう充実したものにしていくためにも、今後とも関係調査機関のご協力の程宜しくお願いいたします。

(国内)

機関名	データ名	媒体・数量
北海道開発局	1994～1995年 潮位データ	リスト
海上自衛隊 対潜資料隊	1994年 海洋観測資料データ	FD 4枚
〃 しらせ	1993年～1995年 BATHYデータ	リスト
南西海区水産研究所	1993年5月～7月 JRK CTDデータ	FD 2枚
中央水産研究所 海洋生産部	1993年5月～6月「蒼鷹丸」CTDデータ	FD 1枚
〃	1993年 CTDデータリスト	リスト
気象庁 海洋気象部	1994年 BATHY/TESACデータ	MT 1巻
〃	1994年10月～1995年11月 BATHYデータ	リスト
〃	1994年2月～1995年1月 JEXAMデータ	MT 1巻
〃	1993年～1994年 WOCEデータ	FD 13枚
〃	1993年 MARPOLMONデータ	リスト
〃	1993年4月～1994年1月 海洋観測データ	FD 1枚
〃	1993年 潮位データ	FD 2枚
〃 温暖化情報センター	温室効果気体データ	CD-ROM 1枚
〃 長崎海洋气象台	1994年 海洋観測データ	FD 2枚
〃	1993年 各層観測データ	FD 1枚
国立環境研究所	1992年～1993年 東アジア海域における 海洋環境の変質と変動に関する モニタリングデータ	CD-ROM 1枚
〃	環境情報ガイドブック第2版	FD 2枚
鹿児島大学 水産学部	1995年8月BATHYデータ	リスト
海洋科学技術センター	1993年3月、7月 1994年3月、9月 海洋観測データ	FD 7枚
〃	1995年1月 WOCEデータ	FD 12枚
〃	1986年 JANEXデータ	MO 1枚
〃	1987年～1993年 JAPACSデータ	
磐城沖石油(株)	1994年 磐城沖プラットフォーム海象データ	リスト
日本海洋石油資源開発(株)	1994年11月～1995年10月 阿賀沖プラットフォーム観測資料	リスト

機関名	データ名	媒体・数量
海上保安庁 警備救難部	1995年 廃油ポール調査データ	リスト
“ 灯台部	1993年 船舶気象通報データ	リスト
“ 水路部 海洋調査課	1993年～1995年 海洋観測データ	FD 25枚
“ “ “	1995年 海洋速報用データ	オンライン
“ “ “	1995年 JAFICデータ	FD 7枚
“ “ “	1994年 WESTPAC各層観測データ	FD 1枚
“ “ “	1993年 南極XBTデータ	FD 1枚
“ “ “	1980年～1993年 アルゴスブイ漂流データ	MT 65巻
“ “ 企画課海洋研究室	第35次および第36次南極観測水深データ	MO 1枚
“ 水路部 沿岸調査課	1994年 毎時潮高ファイル	FD 3枚
“ “ “	1993年 潮流データ	FD 1枚
“ “ 測量船管理室	1986年～1994年 測量船波浪データ	リスト
“ “ “	1994年1月～2月 BATHYデータ	リスト
第一～十一管区海上保安本部	1991年～1992年 巡視船波浪データ (七管区を除く)	リスト
“	1987年～1995年 海潮流観測データ	FD 481枚 CGMT 2巻
東京湾海上交通センター	1994年 気象現況データ	FD 2枚
大阪湾海上交通センター	1994年 気象現況データ	FD 1枚

(国外)

機関名	データ名	媒体・数量
米国NOAA	World Ocean Atlas 1994 Data Sets	CD-ROM 9枚組 30セット
“	SEA LEVEL DATA	FD 1枚
米国NODC	NODCコード表	FD 1枚
米国NGDC	GEODAS	CD-ROM 3枚
米国NODCハワイ支局	海潮流観測資料データ	8MM 1本
WDC-A	Ocean Current Drifter Data	CD-ROM 2枚
JPL. PO.DAAC NASA	TOPEX/Poseidon MGDR	CD-ROM 35枚
JPL. PO.DAAC NASA	TOPEX/Poseidon GDR (東京大学海洋研究所経由)	8MM 13本
韓国国立海洋データセンター	1995年 WESTPAC TESAC データ	リスト
“	1961年～1993年 海洋観測データ	CD-ROM 1枚

JODCのデータ管理状況

JODCが管理しているデータは以下のとおりです。詳細は「日本海洋データセンター利用の手引き」をご覧ください。

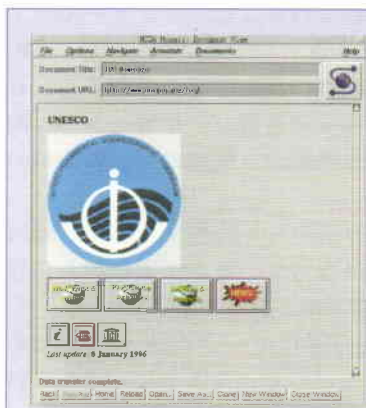
なお、インターネットを通じても同様な情報が取得できますので、これについては「JODCニュースNo. 51」をご覧ください。

種 類	データセット	概 要
水温・塩分	各層観測	ナンセン採水器、STD、CTDによる所定層の水温・塩分など
	BT	MBT、DBT、XBTによる水温の鉛直分布
	BATHY / TESAC	IGOSS通報による水温・塩分
	水温データセット	各種のファイルから統合した所定層の水温
	沿岸域海象	水産庁、気象庁沿岸定点における月及び旬平均の表面水温・気温
	世界水温・塩分	全世界の海洋の水温・塩分データ
	世界水温・塩分統計値	全世界の年、四季、月の水温・塩分統計値 (1度グリッド)
海流	海流	GEK、偏流、ADCPによる海流データ
潮汐・潮流	毎時潮位	海上保安庁、気象庁、北海道開発庁の観測点
	験潮曲線	海上保安庁観測点の験潮曲線のマイクロフィルム
	太平洋・インド洋潮位	太平洋、インド洋 (34地点)
	潮流	流速計による潮流データ
波浪	定点測器波浪	気象庁の測器による波浪観測
	沿岸目視波浪	灯台等による目視波浪観測
	船舶目視波浪	巡視船による目視波浪観測
汚染	重金属・油分等 油汚染	海上保安庁、環境庁、気象庁による海洋汚染観測 MAPMOPP、MARPOLMONによる油汚染観測
海洋地球物理 ・海洋地質	水深	各種測量資料、海図等の水深をデジタイズしたデータ、 調査船で得られた水深値 (MGD77)
	ETOPO5	米国NGDCが作成した5分メッシュごとの水深・標高データ
	1分メッシュ水深	JODCの水深データと大陸棚の海の基本図をもとに 作成した1分メッシュごとの水深データ

種 類	データセット	概 要
	3次メッシュ水深統計	JODCの水深データを3次メッシュごとに統計値(平均、最大値、最小値、点数、標準偏差)を算出したデータ
	等深線	各種測量資料等の等深線をデジタイズしたデータ
	海岸線	各種測量資料等の海岸線をデジタイズしたデータ
	底質	各種測量資料等の底質をデジタイズしたデータ
	地磁気	調査船で得られた磁気値 (MGD77)
	重力	調査船で得られた重力値 (MGD77)
	KAIKO	仏「ジャン・シャルコー」によるKAIKO計画第1期 の水深、地磁気、重力、音波探査の成果
	CLIMAP	CLIMAPプロジェクトで得られた海底堆積物の柱状 試料の分析結果
	SEATAR	SEATARプロジェクトで得られた東アジア海域のデータ
	火成岩化学成分	火成岩分析のデータバンクであるPETROSのデータ
	測量原図	水深測量の原資料
海洋生物		環境庁、水産庁、気象庁、都道府県水産試験場の観 測によるプランクトンデータ
所在情報		地域海洋情報整備事業で得られた海域毎の海洋情報 (自然情報)の所在情報
海底設置型等の 海洋観測機器		国内関係機関より収集した海底設置型等の海洋観測 機器の設置・揚収状況

ちょっと休憩・・・

JODCニュースでは、本号から海洋関係機関のWWWサーバのホームページの概略を紹介していきたいと思います。



海洋関係機関のホームページ その1

機関名 Intergovernmental Oceanographic Commission
 アドレス <http://www.unesco.org/ioc/>
 メニュー Who, What & Where
What is the IOC ?
Who is involved in the IOC ?
Where is the IOC secretariat ?
Programme Activities
Services & Products
NEWS!

Topics & Information

■ PICES / TCODEについて

PICES は「北太平洋の海洋科学に関する機関 (PICES) のための条約」(1992年3月発効)に基づいたベーリング海を含む北緯30度以北の北太平洋における海洋調査等の国際協力を推進するための組織で、現在の加盟国は米国・カナダ・中国・日本・韓国の5ヶ国です。PICESの下部組織の一つとして、PICESの活動に必要なデータ・情報管理に関して指導助言をする情報交換専門委員会 (TCODE)が第3回年次会合(1994年10月)で新設されました。委員として日本からは水産庁の小林氏とともにJODC 所長が選出されています。

1995年10月16日～19日中国の青島で第4回年次会合が開催され、併せて最初のTCODE会議が行われました(残念ながら所長の出席は成りませんでした)。年次会合には加盟国のほか諸国際機関等がオブザーバーとして参加し、科学部会の報告やタスクグループの設置、ワークショップの開催、財政問題等が議論されました。

TCODE関係では次の5点が決定されました。

1. 「可能なかぎり既存の国立/国際データセンター、プログラム等を利用し、そこへデータが集まることを奨励する」、「重要な機関や研究所への"pointers"を提供するためにWWW / Internetシステムを利用する」などの、PICESのデータ管理に関する TCODE 戦略計画が承認された。
2. 船舶計画に関するTCODEの勧告については事務局提案と調和させるべきである。TCODEメンバーは計画の提出に関し取り決め、それらの普及のためにPICESのWWWホームページが使用されるだろう。
3. TCODEは航海報告に関する勧告のための実施計画を提出すべきである。
4. TCODEは、「PICES域の研究所等の関連保有データインベントリ」に関する勧

告及び「長期タイムシリーズのインベントリ」に関する勧告の実施を開始すべきである。

5. TCODEの代表者は、活動報告、データの要求・問題点の学習のため、他のグループの関連会合に参加するよう招待されるべきである。

今後、PICES の枠組みで得られる海洋科学調査に関してのデータ・情報の流通体制の整備が徐々に進められ、北太平洋水域における生物・環境等の幅広い分野での科学的な調査が促進され、海洋科学について関係国間の相互理解が深まることが期待されます。

■ 平成7年度第1回「海洋データベース運用方式」検討委員会開催

海上保安庁水路部海洋情報課(JODC)では、科学技術振興調整費「地球観測データのデータベース化に関する研究」の中の1つの研究課題として、平成6年度より「海洋データベースの運用方式」の研究を押し進めています。6年度には、その成果としてインターネットを利用したJODCホームページの開設が挙げられます。

今般、関係省庁から各委員の方々に出席していただき、昨年度と同様に平成7年度同研究の第1回検討委員会が、11月27日水路部に於いて開催されました。インターネットを介し、JODCが保有する海洋データを、どのようにして利用者に提供するかを踏まえ、6年度システム開発報告及び7年度システム開発計画につき事務局から説明の後、各委員の方々より；

- ・データダウンロードに関する利用制限は組織単位になっているが、より細かい管理等再考の余地が有るのではないか。
- ・統計値等の図化データの表示及びそのダウンロードができるようにしてもらいたい。

Topics & Information

- ・航海計画、航海報告並びに実データがセットで出力されると都合が良い。
- ・政府機関のデータベース構築・提供では、JODCが一番進んでいる。今後のシステム開発に期待している。

等々の貴重なご意見を頂きました。

なお、平成8年3月上旬頃に第2回検討委員会が予定されており、更なる意見交換が行なわれます。

■ GOOS「海洋データ利用検討会」開催

平成7年12月19日に海上保安庁水路部において、平成7年度GOOS（世界海洋観測システム）「海洋データ利用検討会」が開催されました。この会議は、JODCが科学技術振興調整費「世界海洋観測システム構築に資する革新的ブイシステムの基盤技術開発研究」で開発研究を行なっている「オンラインデータ管理・提供システム」の将来的な海洋情報・データ流通体制の検討を行なうためのものです。

今回の議題は「日本海洋データセンターにおけるオンラインサービスについて」です。JODCがインターネット上に開設しているWWWサーバ、FTPサーバにアクセスしたとき使い勝手や改良すべき問題点の検討が行なわれ、使いやすくするためにはホームページの中に国内の全海洋関係機関とのリンクページを設けて欲しい等JODCのインターネットについて活発な討議が行なわれました。

■ 第14回WESTPAC 海洋データ管理研修開催

JODCでは、IOCのTEMA（訓練教育及び相互援助作業委員会）の活動の一環として西太平洋海域共同調査（WESTPAC）における海洋データの円滑な交換を図るため、同地域内の海洋データ管理者を対象とした当研修を1982年から毎年1回行っており、研修生は延べ8カ国



研修生とJODC講師陣

49名になります。14回目の今回は、Mr. Du Bing（中国）、Lt. Abdul Halim Mohd Ashaari（マレーシア）、Mr. Khouw Abrakam Seumel（インドネシア）の3名を迎え、1995年10月16日から同月27日まで約2週間の日程で実施しました。

研修では、IOC / IODE システム、海洋情報・データの処理管理方法、データの品質管理等の講義及び実務に則したAXパソコンによるデータ処理演習のほか、国内外の利用者がインターネットを通じてJODCが保有する海洋データ及び情報を取得できるオンラインシステムについての紹介を行いました。また、研修の一環として海洋科学技術センターと海上保安試験研究センターの見学も行いました。

■ マレーシア国立海洋データセンター 設立に専門家を派遣

平成7年11月8日、元水路部水路技術国際協力室長の矢野雄幸氏が JICA 専門家としてマレーシア国立海洋データセンター(NODC)の設立を支援するため成田を出発しました。

マレーシアは、国土の三方を海に囲まれた海洋国家であり、近年、マラッカ海峡の安全、港湾開発、学術研究等海洋データの利用が増大しており、また、当該海域からの最大限の利益と海洋資源を得るための海上活動を重点とした国家方針を表明しています。これらの

Topics & Information

ことから、海洋データの一元的管理を行う国立海洋データセンターの設立が急務となっていました。

このため、海洋データ管理の先進国である我が国にその設立支援を要請し、これに応えるため今回の専門家派遣となりました。

白羽の矢が立った矢野氏は海上保安庁水路部入庁以来、主に海象業務に従事し、潮汐・潮流の解析専門家として過去にマレーシア、エジプトに JICA 派遣専門家としての実績があり、その後、JODC にも在籍され海洋データ管理の専門家としても豊富な知見を有しており、海洋データセンターの設立及び運営に関する支援・技術移転といった今回の任務に遺憾なく力を発揮されることが期待されております。

■研究者招聘 馬継瑞氏 (中国)

日中亜熱帯循環系共同研究における交流研究者として、平成7年12月7日から同15日まで中国海洋データセンター Research Professor の馬継瑞氏が来日し、JODCにおいてデータ管理等に関する共同研究を行いました。

今般の主な課題は、当該プロジェクトにおける円滑なデータ流通を図るため、日中両国の海洋データセンターが窓口になり、海洋データの交換を推進するという取り決めに基づく、「データ交換細則」の作成に関する事項で、本件については今後、中国海洋データセンターとの協議等を重ねるとともに、当該プロジ



馬継瑞氏：左から2人目

ェクトに参画している国内機関各位とも協議等しながら、遅くとも平成8年の夏頃までには両国で合意のうえ完成させる予定としています。

関係機関の皆様には一層のご協力のほどお願い申し上げます。

なお、馬氏は50歳代前半の研究員で、来日が初めてのこともあり、休日にJODC職員が案内した横浜・東京で見ることができた日本の代表的都市機能、国民生活の一端など、見るもの、聞くもの全てに感動の意を表していましたが、その中でも特に「物価高」と「新幹線」には強いショックを受けた様子でした。

■データセット紹介

・韓国各層観測データ

JODCでは平成7年12月、韓国海洋データセンター(KODC)から同センターが保有する各層観測データを受領しました。このデータは同時期に日本で開催されたNOWPAPワークショップ(本誌会議報告参照)に参加者として来日したKODC 所長から直接受領したもので、CD-ROM 1枚に納められています。内容は韓国の海洋調査機関が1961年~1993年に観測した各層データで、水温、塩分、溶存酸素、りん酸塩、亜硝酸塩、珪酸塩及びPHの各化学要素が含まれており、収録全観測点数は33,421に及んでいます。JODCでは本データをWESTPAC海域における重要データと位置づけており、データベースに追加すべく処理・管理していく方針であります。

詳しくはJODCまでお問い合わせ下さい。

・CD-ROMデータセット "MGDR from the TOPEX/Poseidon Mission in the adjacent seas of Japan vol.2"

このデータセットは、海上保安庁水路部企画課海洋研究室から提供されたもので、米国と仏国の共同ミッションであるTOPEX/Poseidon 衛星計画の日本近海の海面高度データです。

Topics & Information

昨年に作成されたCycle 1 to 50に続いて、今回新たに Cycle 51 から 100 までを収めたものが作成されました。

米国のJPL (ジェット推進研究所) により作成・配布されたオリジナルCD-ROM "PO.DAAC Merged Geophysical Data Record from the TOPEX/Poseidon Mission" には、全世界のデータが収められていますが、本データ

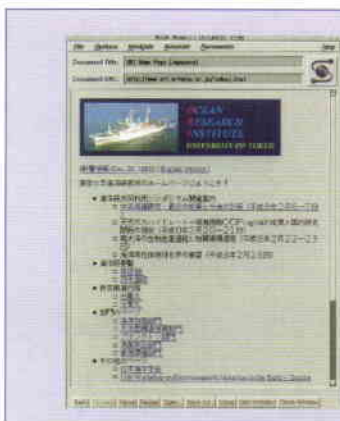
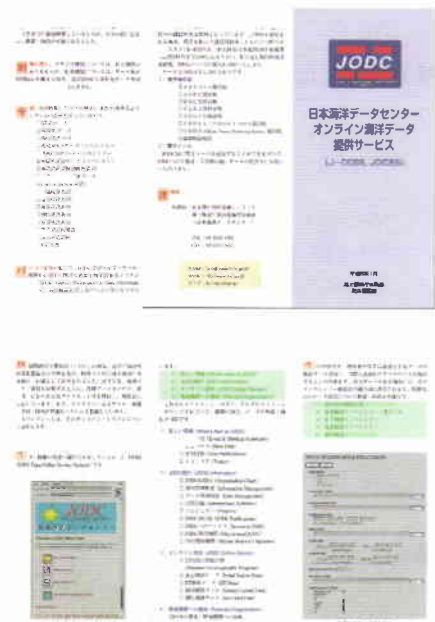
セットは、このうち日本近海 (20-60 N, 120-160 E) についてのデータを切り出して、50 Cycle (1 Cycle 約10日間) 分を1枚のCD-ROMに収めたものです。

また、海洋研究室のご好意により、データの切り出し等に用いたプログラムソースも一緒に収められています。

■ オンライン海洋データ提供サービスパンフレット配布

インターネットを通じて、JODCが保有する海洋データ・情報を検索・抽出できるシステム、J-DOSS (JODC Online Service System) — 本誌No.51で紹介 — と、パソコン通信を通じてJODC及びユーザーが提供する海洋に関する情報を利用できるJOIDES (JODC Online Information & Data Exchange Service)の2つを紹介したパンフレットを、日本語版と英語版の2種類で作成し国内外の関係機関に配布しました。

このパンフレットでより多くの方々にJ-DOSS、JOIDESについて知っていただき、実際にアクセスしていただきたいと思います。



海洋関係機関のホームページ その2

- 機関名 東京大学海洋研究所
- アドレス <http://www.ori.u-tokyo.ac.jp/>
- メニュー [海洋研共同利用シンポジウム開催案内](#)
[海洋研要覧](#)
[研究航海日程](#)
[部門のページ](#) 等々

IOC刊行物・文書保管センターから

新しく受領した文献のリスト (1996年1月18日現在)

● Report of Meetings of Experts and Equivalent Bodies

- No. 98 *Joint Scientific and Technical Committee for Global Ocean Observing System (J-GOOS), 1994*
- No. 99 *Second International Meeting of Scientific and Technical Experts on Climate Change and the Oceans, 1994*
- No. 101 *IOC Editorial Board for the International Bathymetric Chart of the Caribbean Sea and the Gulf of Mexico (IBCCA), 1994*
- No. 102 *Joint Scientific and Technical Committee for Global Ocean Observing System (J-GOOS), 1995*

● Reports of Governing and Major Subsidiary Bodies

- No. 61 *IOC-WMO Intergovernmental WOCE Panel, 1995*

● Workshop Report

- No. 105 *Conference on Coastal Change, 1995*
- No. 106 *IOC/WESTPAC Workshop on the Paleographic Map, 1994*
- No. 108 *UNESCO-IHP-IOC-IAEA Workshop on Sea Level Rise and the Multidisciplinary Studies of Environmental Processes in the Caspian Sea Region, 1995*
- No. 109 *First IOC-UNEP CEPPOL Symposium, 1994*
- No. 111 *Chapman Conference on the Circulation of the Intra-Americas Sea, 1995*
- No. 113 *IOC Regional Workshop on Marine Debris and Waste Management in the Gulf of Guinea, 1994*
- No. 114 *International Workshop on Integrated Coastal Zone Management (ICZM), 1994*

● Training Course Reports

- No. 29 *IOC-UNEP-WHO-FAO Training Course on Qualitative and Quantitative Determination of Algal Toxins*
- No. 32 *IOC-UNEP-FAO Training Course on Nutrient Analysis and Water Quality Monitoring*

● GESAMP

- No. 56 *Report of the twenty-fifth session of GESAMP*
- No. 59 *The Sea-Surface Microlayer and ITS Role in Global Change*

● Information etc.

- INF-998 *Composition of IGOSS, 1995*

表紙写真

第五管区海上保安本部の新20メートル型測量船「うずしお」

平成7年12月竣工。総トン数31トン、全長21メートル、航海速度約15ノット、乗組員5名。和歌山県から兵庫県に至る本州沿岸、徳島県から高知県に至る四国沿岸及びこれらの沖合いの広大な第五管区管内水域の水深、海流・潮流、港湾の状況などの調査をする多目的測量船です。

各種の近代的な調査機器を搭載しており、特に浅海用ナローマルチビーム音響測深機は精密かつ詳細な海底地形の調査に威力を発揮します。

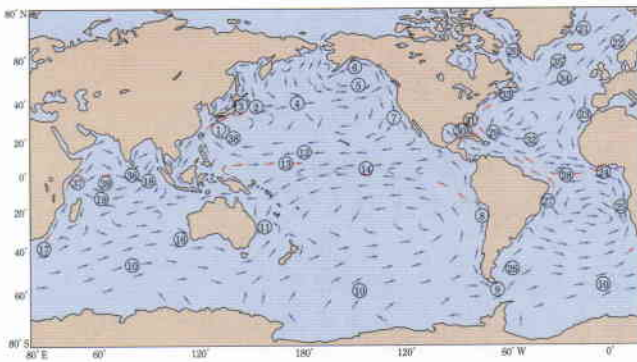
世界の海流図について

今回、理科年表（1996年版）に掲載されている世界の海流図を改訂しました。

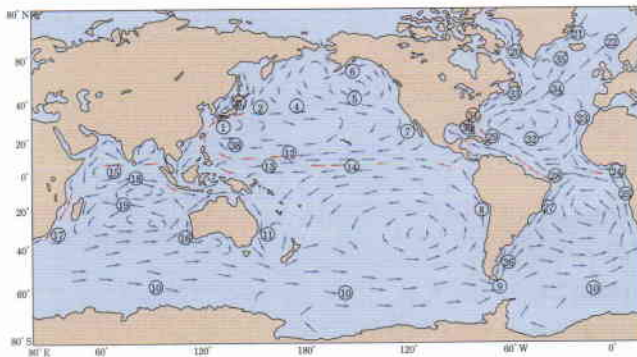
この海流図はJODCが現在までに収集したGEK・ドリフト・ADCP（約227万点）による海流データを使って2度メッシュ単位の月別統計を計算し、ベクトル流向・流速をプロットしたものを参考にして作成しました。また、データの少ない海域については下記資料を参考にしました。

〈参考資料〉

①特殊図第6031号北太平洋海流図、②特殊図第6033号インド洋及びオーストラリア近海海流図、③「ATAAC OKEAHO3」ソ連科学アカデミー1977、④ ROBERT L. MORINARI :Surface Current Distributions in the Tropical Indian Ocean Derived From Compilations of Surface Buoy Trajectories, JOURNAL OF GEOPHYSICAL RESEARCH, VOL.95, NO.C5 PAGES 7217-7238, MAY 15, 1990、⑤ Defense Mapping Agency : Sailing direction (Enroute)、⑥ 大洋航路誌：海上保安庁 平成4年3月、「海洋大事典」：和達清夫監修 東京堂



世界の海流図（8月）



世界の海流図（2月）

- 1) ←0.5～1.0ノット(約0.25～0.5m/sec),
←1.0ノット以上(約0.5m/sec以上)
- 2) ③⑧は弱い東向流として存在するといわれている亜熱帯反流。
- 3) ③⑨は4月,11月頃に3ノット以上の東向流として存在する赤道ジェット。

世界の主な海流

- | | |
|-------------------|---------------|
| ① 黒潮 | ②① 東グリーンランド海流 |
| ② 黒潮続流 | ②② ノルウェー海流 |
| ③ 親潮 | ②③ カナリー海流 |
| ④ 北太平洋海流 | ②④ ギニア海流 |
| ⑤ アリューシャン海流 | ②⑤ ベングエラ海流 |
| ⑥ アラスカ海流 | ②⑥ フォークランド海流 |
| ⑦ カリフォルニア海流 | ②⑦ ブラジル海流 |
| ⑧ ペルー海流 | ②⑧ 南赤道海流 |
| ⑨ ホルン岬海流 | ②⑨ アンチール海流 |
| ⑩ 南極還流(周極流) | ②⑩ フロリダ海流 |
| ⑪ 東オーストラリア海流 | ②⑪ メキシコ湾流 |
| ⑫ 北赤道海流 | ②⑫ 北赤道海流 |
| ⑬ 赤道反流 | ②⑬ ラブラドル海流 |
| ⑭ 南赤道海流 | ②⑭ 北大西洋海流 |
| ⑮ 北東季節風海流 | ②⑮ イルミンガー海流 |
| ⑯ 西オーストラリア海流 | ②⑯ 南西季節風海流 |
| ⑰ アグリアス(モザンビーク)海流 | ②⑰ ソマリー海流 |
| ⑱ 赤道反流 | ②⑱ 亜熱帯反流 |
| ⑲ 南赤道海流 | ②⑲ 赤道ジェット |
| ⑳ 西グリーンランド海流 | |

JODC

私たちと一緒に海の仕事をしませんか？

海上保安庁水路部では、若い力を求めています。私たちは例えて見れば海や空を調査する探検隊です。

海洋や宇宙の神秘に興味のある方は、

海上保安学校「海洋科学課程」へ

他にも船舶運行システム課程、情報システム課程及び海上保安大学校があります。

応募受付期間は、各課程によりそれぞれ4月中旬、8月中～9月上旬と異なります。詳しくは、海上保安庁、各地の管区海上保安本部及び海上保安部・署にお問い合わせ下さい。

「JODC ニュース No.52」

— 1996年3月発行 —

日本海洋データセンター

(JODC)

〒104 東京都中央区築地5-3-1
海上保安庁水路部

Tel : (03) 3541-4295 (JODC)
(03) 3541-4296 (海の相談室)

Fax : (03) 3545-2885

E-mail : mail@jodc.jhd.go.jp